

教宣 せぶん

「あっさり」とした説明

先日、職場で「新しいクレジットカード払い(新クレカ)のご案内」の説明を受けました。扱者負担となるカード会社に支払う手数料率は低くされましたし、システムも簡素化されました。現行のクレジットカード払いを利用されている扱者にとっては「進化した」と感じる方もいるのではないのでしょうか。「使いやすくしたので自動車のキャッシュレス化をすすめましょう」というのが会社の意図なのでしょう。

さて、この「クレカ払い制度」を会社から最初に提案されたのはおよそ10年前。手数料を契約係社員も含めた扱者負担にするという提案内容に当時の支部執行部は猛反対しました。「デパートの店員が物を売り、お客がクレカを選択した際に、その手数料を店員の月給から差し引くのか？」という例え話が出たことを思い出します。結局この提案は、何年も平行線のまま塩漬けとなり、数年後に合意したわけですが、当然のことながら合意までの手数料は会社負担とさせました。考えてみれば当時の支部体制・路線の中で、一番会社と正面切ったたかっただのはこの問題だったような気がします。

あれから10年が経ち、その間に会社は合併し、組合は分裂し、「月掛」はなくなり、契約係社員制度も閉ざされようとしています。私たちの労働条件に関わるすべてのことは組合に提案させ、協議した上で実施するという日動社の中で培われてきた文化・伝統も、組合分裂後、瞬く間に消えていきました。私たちの労働条件の根幹に関わるものがレターで流され、日動社時代は支部と会社が協議したうえで下ろされるようなことを全国型社員が業務連絡会で当たり前のよう説明しています。契約係社員のほとんどが「組合は身近なもの」と感じていた時代はある日突然なくなってしまったという感じではないでしょうか。

イメージですが、合併が発表されてからその理由を日動経営は、東海社の「青」と日動社の「赤」が交わって、新しい時代に新しい色を作っていくというような説明をしていました。個人的には、純然たる「紫」にはならないものの「青に近い紫」になるものかと予想していましたが、「青」のままとは日動社に身を置く者は誰も予想しなかったはず。「新クレカ」のあっさりとした説明に、旧Nのたたかう魂が揺さぶられました。